

令和6年度 幼児教育研修（年齢別担任研修Ⅰ歳児・第Ⅰ回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

日時：令和6年5月9日（木）15:00～17:00

会場：足立区勤労福祉会館

講師：東京未来大学 非常勤講師 小野崎 佳代 氏



発達をどう捉えるのか

- ・発達とは、環境との相互作用により、資質能力が育まれていく過程
- ・それぞれの子どもの育ちゆく過程の全体を大切にする
- ・個人差がある。一人一人の心身の状態や家庭生活の状況などを踏まえ、個別に丁寧に見ていく
- ・「今」の姿を過程の中で捉え、受け止める



発達を理解する基本的な視点

- ・子どもの発達の道筋は共通だが、一人一人の成長の足取りは様々である
- ・発達は直線的ではなく行きつ戻りつする



一人一人の異なる姿に寄り添い、その子らしい育ちを支える



おおむね1歳3か月から2歳未満の発達過程

- ・歩き始め・手を使う・言葉話す→身近なものに自発的に関わる
- ・運動機能の発達や新しい行動の獲得→環境に働きかける意欲を高める
- ・象徴機能の発達→人や物の関わりが強まる
- ・伝えたい欲求の高まり→指差し、身振り、片言を盛んに使うようになり、二語文を話し始める



1歳半頃 自分なりの心の世界が誕生する～自我の芽生え～

- ・歩行の開始で、**自分の意志**で行きたい所に行けるようになり、主体的に世界に関わることができるようになる
- ・言葉の獲得により、自分の名前が分かる（**自己認識**）
- ・イメージや記憶力が育ち、**自分の要求やつもり**を思い描き、記憶できるようになる

自我の芽生えにより、自分と他者との区別がつき始め、他者とは違う自分にこだわる

自分の意志がはっきりしてくるので、大人から指示されることを嫌がる姿も見られます

やだやだ

まずは気持ちを受け止め、「いや」に込められた思いに寄り添う



やってみたい

これがいい

「やってみたい」気持ちを大切に、「自分で」がかなう喜びに共感する



自分の関わり方を振り返ってみましょう

自己主張がなかなか出せない子はいませんか？

- ・大人が過干渉になっていないか
- ・甘えを十分に受け入れているか
- ・自己主張を「わがまま」と拒否していないか
- ・大人とのアタッチメントが築けているか



- ・わかってもらえた安心感が自信につながります。願いや思いを受け止め、思いを言葉にして返していきましょう。
- ・「自己主張してくれたから分かったよ」「自己主張することは大事」というメッセージを伝え続けましょう。
- ・好きな遊びに夢中になって楽しめるようになると、自己表出が活発になることもあります。

自分らしさと意欲を育む 保育者の役割

子どもの姿

- ・分かってもらえたという実感が、自己肯定感へとつながっていく。
- ・「つもり」を受け止めてもらいながら、相手にも思いがあることに気付いていく。
- ・安心できる大人を基地として、自分の要求を出していく。
- ・信頼できる大人に支えられて、人との葛藤を知り始める。



保育者の役割

- ・特定の大人とのアタッチメントをしっかりと築き、人に対する基本的信頼感と自己肯定感を育んでいく。
- ・「つもり」を読み取る。「つもり」と「つもり」をつなぐ仲立ちをしていき、「～したかったのね」と「つもり」をしっかりと受け取る。
- ・自己主張を「わがまま」と否定しない。安心してありのままの自分を出せるよう一人一人の主体としての思いや願いを受けとめる。
- ・イヤに込められた思いに寄り添いながら、「どこちにする?」と自分で考えて選べる場面を作る。

なるほど! そうだったのか



物の取り合いは自己主張と所有意識の表れである。

おもちゃを取り合う、かみついたり髪の毛を引っ張るなど、行動の矛先が相手に向けられるのは、自分を邪魔する行為の主体として相手を意識するからである。



1歳児保育のポイント

①自我の芽生え、育ちを支える

「自分」を出すことが心地よい経験となるよう、安心して思いを出せるように支える

②気持ちよく生活する経験を支え、自分でしようとする意欲を育てる

③「やりたい」がかなう環境を工夫する

④これまで築いてきた大人との関係を、友達への関心・関係へと広げ、友達と関わる喜びにつなげる



研修生の報告書より

● 日々の保育の中で、子どもたちの「つもり」を受け止め、言葉にしていくことで、子どもたちが安心して自己主張する姿を支えていきたい。
→子どもの思いを丁寧にくみ取ること、保育者のことを「自分のことを分かってくれる人」と認識していくと感じた。

● 取り合いは、相手も自分と同じ主体だと認識し始めるころから起こることで、その子が成長しているからこそ手が出てしまうと知った。困った行動ではなく、その子の心の成長と捉えていく。マイナスイメージのある行動も、発達上の行動であると、改めて理解を深めた。
→一人一人の行動から心の動きを読み取り、事前にてきる環境づくりや、援助の工夫などを考え直すヒントになった。